

ケアのポイント

痛みを感じない

例

足の骨折

健常児



動くとき痛い。
動かない。歩かない。
安静にしている。



次第に治る。
折れた骨は時間とともに元に戻る。



元通り走れる。
痛みを経験して危険を学習する。



無痛無汗症児



骨が折れていても、歩く。走る。
骨が折れたことに気づかずに過ごす。
危険を学習できない。



骨折部分の周りの骨が潰れる。関節の損傷。
骨髄炎の発症。
発熱など、からだ全体の異常を発症。



関節が破壊、又は変形（シャルコー関節）。
骨髄炎から感染症を引き起こす。



汗をかけない

例

気温の変化

健常児



(暑い時) 汗をかく。
(寒い時) 血管の収縮。
(寒い時) 鳥肌が立つ。



体温を一定に保つ。



通常の社会生活が可能。



無痛無汗症児



(暑い時) 汗をかけない。
(寒い時) 血管が収縮しない。
(寒い時) 鳥肌が立たない。



体温を一定に保つことができない。
高体温または低体温になる。
切り傷などが治りにくい。
肌が極度に乾燥する。



熱中症になり脳障害を起こす危険がある。
ストレスから自傷行為。
傷口からばい菌が入り、感染症や骨髄炎発症。



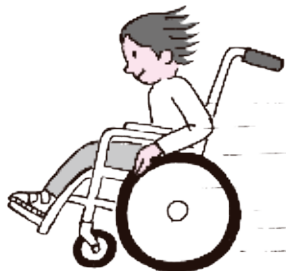
日常生活の注意と対処

温痛覚がないので気をつけて下さい

- 危険なこと、危険なものなどについて、本人に教えていく。
- 本人が危険を自覚できないような場合は、目を離さない。
- 一か所に力がかかる過度な運動は控える。
- 高い所から飛び降りたり、落ちたりしないように注意する。



- 手動車椅子を使用する場合は、手を挟んだり、急ブレーキをかけて手首やひじを痛めたり、足でブレーキをかけたりしないように気をつける。
- 坂やじゃり道などでの運転は手に負担がかかるので控えた方が良い。



- 変な姿勢はやめさせる。

- ストープや熱湯の熱さも感じないので火傷に注意する。
- 食事の時、中身が熱くなりやすい餃子や揚げ物などは、火傷しないように中の熱を逃がす。
- 熱いドリンクは握った手や口の中を火傷するので注意する。
- 凍傷にも注意する。



体温調節に気をつけて下さい

- 室内の温度と湿度を体に負担のないように調節する。
- 夏季は高体温になりやすいので、戸外ではアイスノンやぬれタオルを使ったり、シャワーなど水浴させると良い。ただし冷え過ぎに注意。
- 高体温予防にクールベストが有効かもしれないが、心臓の上は避けた方が良い。
- 適切に水分摂取させる。
- 冬期は保温性のある衣服で調節し、体が冷えないように気をつける。
- 必要により、熱(体温)を測る。



その他のお願い

- ストレスをためさせないために、楽しみを広げられるように心がける。
- ストレスによる自傷行為を始めてしまったら、他のことに関心を向けさせる。
- 顔色(唇の色)や機嫌がふだんと違う時は、目を離さずに注意し、保護者に連絡する。

